

令和6年度 静岡県養護教諭研究会冬季研修会

～オンデマンドにて開催～

【視聴期間】令和6年12月23日(月)～令和7年1月17日(金)

あいさつ 静岡県養護教諭研究会 顧問校長 田中 浩美



令和6年1月には能登半島地震があり、夏には南海トラフ地震臨時情報のために、夏季研修会が急遽中止となった。この冬は穏やかに過ごせるように願っている。今回の冬季研修会は、オンデマンドで誰にとっても参加しやすい方法となった。養護教諭にとって、大切な学びの場を有意義なものにしていきたい。

あいさつ 静岡県養護教諭研究会 会長 中島 由紀江

今期研究会では、「子供の未来のために～伴走者としての養護教諭～」をテーマに活動している。学校は、子供たちが心身ともに成長し、安心して過ごせる場所であればならない。私たち養護教諭は、日々直面する様々な課題や問題に対し、真摯に向き合っている。今回の研修でも、さらなるスキルアップと知識の向上を目指し、学校現場での実践に活かしていきたい。



講話 多様な子どもをチーム学校で支える～『生徒指導提要』の改訂から～

講師 東京成徳大学特任教授(日本学校心理学会理事長) 石隈 利紀 氏



〈講師の紹介〉

山口県出身 学校心理学専門
筑波大学副学長 筑波大学附属学校教育局教育長
東京成徳大学特任教授
公認心理師 学校心理士スーパーバイザー ガイダンスカウンセラー
文部科学省中央教育審議会専門部会委員
★2022年 生徒指導提要の改定に関する協力者会議委員

1-2 『生徒指導提要』の改訂の柱

- ・ (対象) すべての子どもの発達支援 :
学習面、心理面、社会面、進路面、健康面
多様な子ども (個性、教育ニーズ; 背景)
子どもの人権
- ・ (場面) 学校教育すべての場面で
授業、道徳教育、特別活動、学校保健など
- ・ (責任) チーム学校を通して



教職員全員が
多様なすべての子どもをすべての場面で支援
生徒指導=生徒の支援

〈生徒指導の目的〉

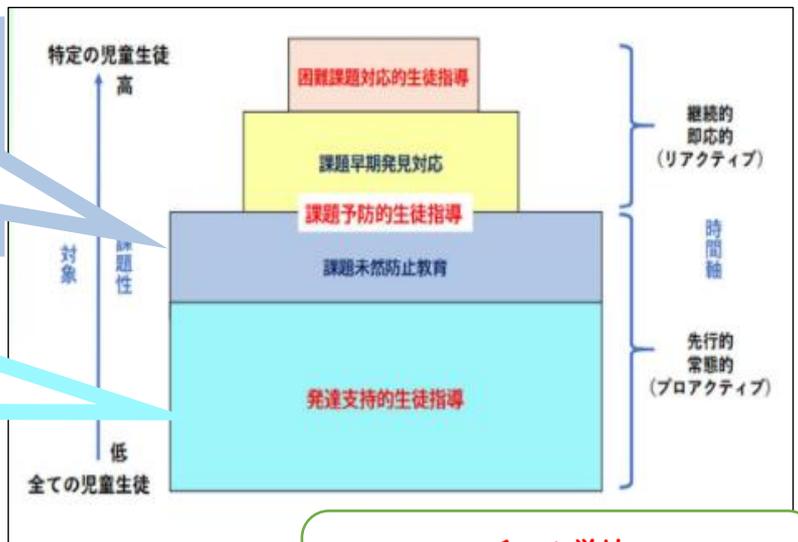
個性(特性・発達状況)の発見とよさや可能性の伸長
個性の定義: 強いところ・弱いところ・育ちつつあるところ

Well-Beingを支える
「個性」のアセスメント

- ・いじめ防止教育
- ・自殺予防教育 (SOS の出し方教育を含む)
- ・薬物乱用防止教育
- ・感染症予防教育
- ・情報モラル教育、メディアコントロール

すべての児童生徒

- ・自分 (自己理解力、自己効力感)
- ・人間関係
- ・キャリア (目標達成力・課題解決力)
- ・心身の健康

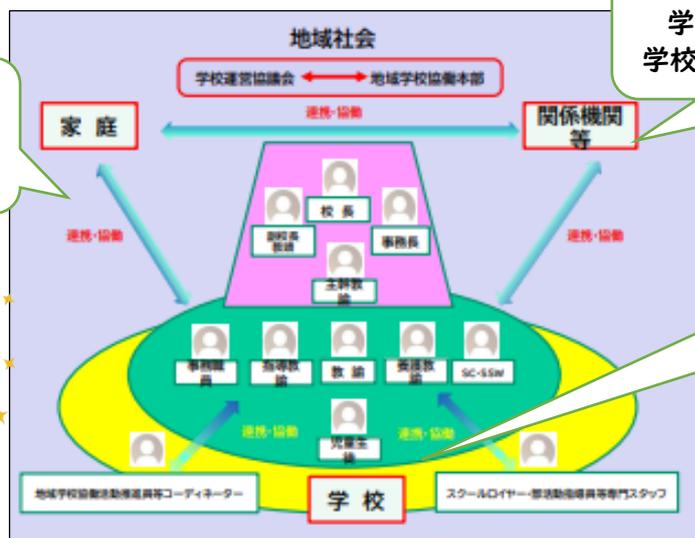


チーム学校

学校における教職員チームの強化
学校・家庭・地域援助機関の連携強化

多様性の尊重と共生

いかに自分と異なる人と
共に生きていくか



児童生徒も学校の一員

学校は大人だけでつくるものではなく、
子供も一緒につくる



**最後に：チーム学校における子どもの支援：
養護教諭への期待**

- (1) 心身の健康の専門家：アセスメント、支援
子どもの「個性」の発見、子どもの意思の通訳とアドボカシー、
子どものよさや可能性が伸びるような支援
★保健室での観察、支援 ★教室での健康教育
→包括的な生徒指導・学校教育への貢献
- (2) 保護者の相談援助、教職員へのコンサルテーション、
学校内外のコーディネーション
→チーム学校への貢献
★コロナ禍での対応で得た経験を活かす！

養護教諭は・・・
支援チームの重要なキーパーソン!!

- ・心身の健康教育を増やしてほしい
- ・保護者のサポーターになってほしい

教職員、SCと共に学校を支えよう。

参考文献
「石隈利紀・家近早苗 2021
スクールカウンセリングのこれから」創元社

お礼の言葉 静岡県養護教諭研究会 副会長 飛田 絵里

一人で頑張ることは自立ではない。きちんと依存できることが自立である。子供は SOS を発信できる力を、大人は SOS を受け止める力を育てていくことが大切である。自分のこととしてしっかり考え、改めて生徒指導提要进行を確認したい。



～会員の感想～

- ・生徒指導＝生徒の支援。チーム学校の一員としてすべての子供に温かな声かけをして、未然防止や早期発見などの対応をしていくことが大切だと学んだ。
- ・子供たちが困ったと言える、依存先の一つとなれるような保健室経営をしていきたいと思った。
- ・課題のある子や言葉で表現できない子の通訳者、代弁者でありたい。

